

「弱い心を変えること」

東山中学校 二年 女子

私は、人権学習で差別などについて学ぶといつも自分の周りのことを考える。そしてその度に、「自分の周りの小さなことから無くそう。」と思う。

しかし、いつも私は、「したい。」と“思う”だけになってしまふ。その時は、本当にそう思っても、「どうせ私一人が動いても、何も変わらないのではないか…」といったの間にか自分を納得させてしまふからだ。

それは、私の心が“弱い”からだと思う。どんなにいじめを無くしたいと思っても、どうせ変わらないと思って、みんなに合わせようとする気持ちに簡単に消されてしまふ。その場だけの気持ちなら、ただのきれいな事だ。

しかし、それでは、いじめている人と同じなのではないか。いじめをしている人ももちろん悪いが、いじめを見過ごしている人も同じだ。だとすれば、行動をしないでいる私もとてもずるいのではないか。

いじめは簡単には無くならない。まして、それを認め、諦めてしまふのでは、絶対に無くすことはできない。

私は、簡単に消されることのないもっと強い意志と心を持ちたい。弱い心を変えることが、いじめを無くす第一歩になるはずだ。

「ごめんね、ほんとにありがとう」

啓成小学校 一年

わたしは、しょうがつこうにゆうがくして、たくさんのともだちができました。

ともだちとあそぶのはたのしいです。だけど、いじわるをしましてけんかになることもあります。ともさんにわるぐちをいってしまったとき、いけないとおもって、

「ごめんね。」

といて、すぐにあやまりました。ともさんは、

「いいよ。」

といて、すぐにゆるしてくれました。だけど、ともさんのかおはまだおこっているみたいで、ちょっとしんぱいでした。だからわたしは、もういちど、

「ごめんね。ゆるしてくれてほんとにありがとう。」

といいました。ともさんはやさしいかおになって、いつもみたいになかよくあそびました。がっこうでは、たくさんけんかもするけど、みんなとすぐになかなかおしあそびるので、やっぱりともだちはいいなとおもいました。



人とかかわりを大切に

啓成小学校 校長 住田秀一

これからの時代は、社会の変化が益々激しくなり、より複雑で予測困難な時代になると言われています。そんな時代を生きる今の子ども達に、どんな力をつけてやれば将来の幸せにつながるのでしょうか。テストのように数値化される学力も確かに大切ですが、それが全てではないでしょう。これから明確な答えのない課題に対して、多様な価値観をもつ他者とも折り合いをつけながら、協力して課題を解決していく力が必要になります。世の中の変化を前向きに受け止め、自分とは違う考えも受け入れなければなりません。このことは「違いを認め合う」という人権教育の基本的な考え方に通じます。そのためにも家庭や地域、学校生活の中で、人とかかわることが「うれしい」「たのしい」と思えるような肯定的感情を育むことが大切になってきます。そうすることが相手を理解し、人に貢献することに幸せを感じる子ども達を育てることにつながると思うのです。